

ヒアリング調査

第 1 部 調査の概要

調査の目的

島田市の子どもをめぐる現状、子育てするにあたって必要な教育の支援、生活の支援、経済的支援等に関する現状と課題やニーズ、要望等の把握を目的として、島田市で活動する関係各所へヒアリング調査を実施しました。

調査の方法

- 調査対象：島田市内の子どもに関わる事業、取組み、支援等を実施している団体等

調査対象団体等
民生児童委員
スクールソーシャルワーカー
中学校教諭
小学校教諭
医療機関
社会福祉協議会
保育園
自治会
こども発達支援センター
こども相談室

- 調査期間：平成 29 年 12 月 11 日～12 月 12 日
- 調査方法：団体等への聞き取り

第2部 調査の結果

調査結果	
団体等名	民生児童委員 1
調査時間	12月11日(月) 10:00~10:45
調査内容	<p>貧困と思われる子どもの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民生児童委員会における貧困家庭についての年間報告例は、1~2件上がる ○「貧困家庭」か「児童貧困」なのかは一見ではわからない <p>貧困の子どもへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民生児童委員同士では、食糧支援が必要であると意見が出ている ○放課後児童クラブで18時頃までの子どもの身柄の安全確保が必要 ○連携面では、年2回地区の小学校、中学校で福祉の会があり、担任の先生と気になる子どもについて話し合う機会がある <ul style="list-style-type: none"> ・地区長さんを始めとして自治会等でも日頃意識している ○親と会うことは、なかなか難しい ○毎月地区会があり、市の福祉課や子育て応援課、社会福祉協議会等の機関と連携して開催するので、情報交換ができています ○親の就労や経済的な支援が重要 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもへの支援はたくさんあるが、社会福祉協議会の支援内容が周知されていない場合があるので、周知を徹底していくことが必要 ○貧困家庭や子どもの貧困は自分から支援を求めに来ないので、地区の民生委員が回って発見することが多い
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員は、日頃の見守りと関係機関への情報共有が主な役割 ●民生委員が日頃の見回りで発見するケースは多い ●貧困家庭は、なかなか自分から支援を求めることがない ●貧困家庭には、まずは食料などの物資を支援することが大切

調査結果	
団体等名	民生児童委員 2
調査時間	12/11 (月) 16:15~17:00
調査内容	<p><u>貧困と思われる子どもの状況</u></p> <p>○民生委員会の毎月のケース研修では、貧困の子どもの話は出てきていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子家庭の外国人は、以前フードバンクを利用しているケースはあった ・ネグレクト家庭の子どもで、身なりが汚い子どもを見かけたケースがあった <p>○赤い羽根共同募金の年末の支援金が出ているが、貧困家庭はなかった</p> <p><子育て支援相談員の立場として></p> <ul style="list-style-type: none"> ○有料の講座を開催しているので、貧困家庭はなかなか利用しないのかもしれない ○母子家庭の方も参加しているが、貧困関係の話は聞かない ○ペアレントサポーターとして「子育て広場」を開催し、1歳未満の子どもの親が集まる会を開催 <p><u>貧困の子ども、育児に悩む親への対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○関わった貧困家庭は、引き続き見守りをしている ○民生委員は、気になる家庭があっても直接訪問はできないので、見守ることしかできない ・どこまで関わっていいのかわからない ・貧困家庭の子どもは、なかなか外から見えにくい <p><子育て支援相談員の立場として></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ひとり親家庭への相談支援を行っている ○気になる親は、保健師と連携して、定期的な見守り、声かけを行っている <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○最近の家庭は1人か3人の子どもを産むことが多い ・3人家庭でも、経済的に苦しい家庭はない ・祖父母と一緒に住んでいる人は、子育てをサポートしてもらえる ・子育ては、親が孤立しないことが大事
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●貧困家庭の子どもは衣服が古かったり、季節にあっていなかったりする ●貧困家庭の子どもを見つけることは難しい ●民生委員は、見守りしかできず、どこまで関わるべきかわからない

調査結果	
団体等名	民生児童委員 3
調査時間	12月12日(火) 14:15~15:00
調査内容	<p><u>活動の現状について</u></p> <p>○民生委員が多く関わる高齢者とは違い、子どもの貧困となると、主に母子・父子家庭が多く、特に母子家庭は世間との壁があり、なかなか中には入っていけない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配があつて訪問しても、家は関係ないと言われることもあり、それ以上は話ができない ・声を上げてくれれば、自立支援事業に結び付けることもできるが、声を上げてこない人の方が多い <p><u>民生委員として感じること</u></p> <p>○今の人たちに話を聞くと、とにかく目の前にある物やことにしか関心がないように感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手当としての現金を支給する代わりに、生活の立て直し方や自立につながるようなシステムをつくっていくことの方が大事なかなとも思う <p>○福祉(学校)の会での話では、本当に家庭の教育力がなくなってきて、その影響をものを受けているのが子どもたちで、その数が増えてきているとのこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力あり、不登校ありで、それを考えると、正に家庭の教育力の貧困といえる <p><u>担当窓口の対応(自立支援事業・生活保護受給等)</u></p> <p>○どんなに良い支援制度があつても、それを運用する段階で本気にならないと相手にも伝わらないし、支援を必要としている人が一步を踏み出すには大変な勇気がいることなので、対応する側にも真剣に向き合う姿勢がほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな意味で引け目を感じている人が多いので、デリケートな部分を優しく親切に対応することも大事だと思う <p><u>それぞれの立場の支援・地域ぐるみの支援</u></p> <p>○地域では、無償で衣類や食料を集めて支援し、お祭りで古い制服を集めて支給したりもしているが、来た人はありがたいと言ってくれる</p> <p>○地域の支援活動として、登校の見守り隊を始めてちょうど1年たつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアを60人ほど募り、毎朝、登校を見守っているが、その間だけの会話や態度からも、家庭の様子がかいま見える ・見守りの抑止力が子どもにも効果的で、乱暴な子どもの行動が落ち着いたりもする ・学校で見せる顔と地域で見せる顔は違うので、ちょっと気になることがあった場合は学校に知らせるし、いろいろな目で見守ることが大事
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●支援が必要な人が声を上げてこない ●家庭の教育力の低下が暴力や不登校につながり、ひいては貧困につながっている ●いろいろな体験や関わりが、子どもの心を育て自立を助ける ●見守りは、様々な視点で行うことが重要

調査結果	
団体等名	スクールソーシャルワーカー1
調査時間	12月11日(月) 11:00~11:45
調査内容	<p><u>貧困と思われる子どもの状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活困窮かどうかは、すぐには判断がつきにくい ○ひとり親家庭では、生活の困窮を訴える家庭が多いのは確か ○障がいのある子どもがいる家庭や親に障がいがある家庭は、困窮状態に陥りやすい ○低学力、忘れ物が多い子どもなどは、生活困窮に該当する家庭の可能性が高いと感じる ○経済面では、学校の諸経費の振り込みがいつも催促状態であるなどの幾つかの要因があり、そこをよく見ていくと、問題があることがわかる ○問題を抱える家庭が多い学校地区もあり、地域性もみられる <p><u>スクールソーシャルワーカーとしての支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在、スクールソーシャルワーカーは島田市には3人、3人で小中合わせて25校ぐらゐを担当している ○相談対応と経済的支援としての家庭訪問 <ul style="list-style-type: none"> ・経済的に苦しくても就学援助を受けていない家庭には、制度としてきちんと利用していくように提案している <p><u>他の部署や機関との情報のやりとりについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○校長、教頭、養護教員とスクールソーシャルワーカー、子育て応援課、福祉課、学校のスクールカウンセラーとのケース会議を開き、連携を取っている <p><u>支援者間での連携について、難しいと思うこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活困窮の家庭の状態を把握するのに、学校にいるだけではわかりにくい ○医療との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の貧困の状態や原因が捉えにくいため、関係機関が関わる担当範囲が明確ではなく、問題のケースによっては難しい連携となる <p><u>必要な支援について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○対策として不足と感じることは、「学力の向上」や「健康面」への支援 ○保護者も気軽に相談できる総合窓口が必要 ○貧困家庭への支援は、ほとんどの場合は状況を隠そうとするし、よかれと思って支援しようとしても断られるケースの方が多い ○貧困状況を生み出すのは、中学生になってからの問題ではなく、幼少期からの関わり方の問題が大きく影響する <ul style="list-style-type: none"> ・幼少期から高校まで一貫して情報を伝達できる統一のシートを作ろうかという話もあり、先を見据えれば就労支援にまでつながる ・貧困の連鎖を断ち切るためにも、貧困家庭で育った子どもの就労は大きな問題
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●貧困の定義づけが難しい ●貧困家庭への支援の仕方が難しい ●様々な家庭の背景に応じた支援のあり方を考える必要がある ●学校だけではなく、総合的な相談窓口を設ける必要がある

調査結果	
団体等名	スクールソーシャルワーカー2
調査時間	12月12日(火) 13:15~14:00
調査内容	<p><u>貧困の状況にある子どもの発見について</u></p> <p>○毎年、虐待やネグレクトを始め、経済的な貧困家庭とは、何かしらの関わりがある</p> <p>○ひとり親の増加もあり、事例が起こるケースとしては、シングルマザーの家庭が非常に多い</p> <p>○ソーシャルワーカーとして、子どもへの表れ方をみていると、1つは本人の発達の特性、もう1つは虐待やネグレクトを含めたその子の家庭環境にあるように思う</p> <p>○貧困は、経済的なことだけではなくて、教育の貧困につながることも多い</p> <p><u>子どもを救済・改善していく支援について</u></p> <p>○ケース会議に上がった子どもへの対応は、学校の先生や市の子育て応援課が入ること で、100%の支えではないかもしれないが、その子どもに合った改善を図っている</p> <p>○子育て支援に手厚いサービスが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく行きやすい子育て支援の窓口が、もっとあると良い ・中学校での相談を聞くと、小学校のときに相談に来てくれれば、手を差し伸べられたのにと歯がゆく思うケースが多い ・そういう意味で、気軽に話(相談)に行ける場所が、近くにわかりやすい形であるといい ・貧困もいろいろあるが、その子のための話をして、その子に合った支援を考えていくことが大事で、その話し合いの場をつくっていくことも大事 <p>○子どもに対する学習支援の場も増えると良い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の子どもは、長い時間学校に行っていないと、学習の面からも学校に戻るのが難しくなる ・中学生になるともっと切実で、学習面の遅れは、その後の進路にまで影響していくが、ちょうど成長が著しい時期でもあるので、プライドから勉強ができない、わからないと素直に発信できないこともあり、中学生の学習支援を困難にする一因となっている <p>○子どもの自立の過程で、学習は必要なことであるが、現在、それは学校だけではまかないきれないところがある</p> <p><u>子どもの不安への対処の連携</u></p> <p>○夏休み等の長期休暇の対応(居場所、安否確認等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は、不登校の子どもも夏休みは家庭でリセットできるし、安心してゆっくり過ごすことを指導していたが、今は逆に、長い間、保護者に戻ることが心配になる家庭が増えてきている <p><u>先生方の子どもの虐待に対する意識不足について</u></p> <p>○学校(教師)の認識として、発達障がいはかなり浸透して受入れ体制ができているが、虐待に対しては、まだまだ抵抗感があるようだ</p>
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●気軽に相談できる場所が、どこでも近場にあると良い ●ひとり親が近年増えてきている ●長期休暇で家庭に帰すことで、子どもの居場所や安否が不安になる ●不登校の子どもへの支援として、学習支援が重要 ●虐待に対する学校の意識の浸透がまだ低い

調査結果	
団体等名	中学校教諭
調査時間	12/11（月）13:15～14:00
調査内容	<p><u>貧困の子どもと思われる子どもの状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○貧困状況にあるとするのは、様々な家庭環境があるので確定することが難しい <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにお金をかけていない家庭が貧困というのかわからない ・服装のボタンが取れている子どもがいても、親の手抜きの場合もある ○諸経費の支払ができない家庭はあるが、貧困家庭かわからない ○養護教諭は、小学校から中学校への情報共有はできている <ul style="list-style-type: none"> ・入学時の情報に基づいて、気になる子どもを継続してチェックしている ・気になる子どもは、小学校に問い合わせるなど対応している ○部費が払えない子どもは、ほとんど見かけない ○昔と比べて、貧困の子どもが増えたという印象はない <p><u>貧困と思われる子どもへの対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケース会議を開催して、情報共有している ○教員による家庭訪問を実施している ○民生委員連絡協議会を年2回実施して、情報共有している ○担任だけでなく、教員同士、外部関係機関と連携して対応している ○人員不足で十分な対応ができるかわからない <p><u>教育支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○土日の補習は、実施していない <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに1週間程度補習を実施している ・参加者は声かけで集めるが、参加率はおおむね良い <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校から高校への情報共有は、徹底しているわけではない ○学校の子どもたちへの相談対応は、“幾つも選択肢（養護教諭、S C、担任など）を用意”することを心がけている
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●貧困家庭かどうか判断が難しい・わかりにくい ●外部関係機関と連携して、各種対応している ●家庭訪問は、学校でも外部機関とも連携して実施している

調査結果	
団体等名	小学校教諭
調査時間	12/11（月）14:15～15:00
調査内容	<p>貧困の子どもと思われる子どもの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○服装や髪型が清潔ではない子どもは、見かけない ○給食費を滞納している家庭は、ほとんどない ○諸経費を滞納している家庭は、ない ○不登校の子どもがいる <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が理由で不登校気味になっている ・心配ごとが多くて、家を出られない子ども ・学習室を1室設けて、支援員と教師2人で利用している <p>貧困と思われる子どもへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気になる子どもがいた場合、“一報メモ”と口頭で情報を共有 ○ケース会議を開催して、教員同士で情報共有と対応を検討する ○子育て応援課、保育園、民生委員、市教委の指導主事、中央児童相談所などと連携して家庭訪問等を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・外部関係機関との連携もできている ○なかなか親に支援を受けつけてもらえず、困る <p>居場所支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別なことは行っていないが、親や子どもたちから特に要望はない ○学期末にサマースクール、ウィンタースクールを開催して学習支援を行っている <ul style="list-style-type: none"> ・先生や地域の人で補習をしている ・声をかけた子どもは、ほとんど参加している ・参加者には、学習意欲が向上した子どもがいた
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●貧困家庭の子どもは、生活習慣が乱れるので、生活習慣改善が必要 ●貧困家庭の子どもの実態が把握しにくい

調査結果	
団体等名	医療機関
調査時間	12/11（月）17:15～18:00
調査内容	<p>貧困の子どもと思われる子どもの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経済的な貧困家庭のケースを対応したことがある ○ネグレクトや虐待の家庭に、気づいたことがある <p>家庭環境に問題のある子どもへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ネグレクトや虐待のある家庭は、市などと連携して対応している ○貧困家庭の子どもを発見しても、通報システムが法的に整備されていないので、連絡しにくい ○まずは医師会で勉強会を開催するなど、貧困家庭への対応を検討してもらうことから始める方が良い <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○貧困の連鎖を断ち切るためには、まず教育を充実させること <ul style="list-style-type: none"> ・自分で生きる力を学ぶ教育が必要 ・子どもの中にも差別があるので、なくした方が良い
現状・課題	●虐待などは法的な義務があるが、貧困は通報システム等の体制が確立していない

調査結果	
団体等名	島田市社会福祉協議会
調査時間	12/12 (火) 11:00~11:45
調査内容	<p><u>子ども応援プロジェクト</u></p> <p>○NPOぽぽろフードバンク、福祉課と協力して子ども応援プロジェクトを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの給食がないときに実施した ・74件申請があり、71件に配布 ・母子家庭や子どもが多い家庭が多い ・生活保護を除く就学援助を受けている方に、各所で募集をかけた ・全国的にも先進的な取り組みとして実施 ・全く普通の家庭も、中にはいた ・目的は、食を通じて、見落としていた貧困家庭を発見したり、相談対応につなげたり、実態を把握する機会とした ・相談を受けた人の中には、緊張している人もいた ・食を通じた支援は、対象者をほぐして、距離を縮めることができるので、相談支援を行いやすい <p><u>子ども応援プロジェクトに訪れた家庭の状況</u></p> <p>○長女の発達支援、次女の不登校の家庭があった</p> <p>○なかなか子どもを見る時間がないので、子どもの勉強を見てあげられない</p> <p><u>きらきら星の状況</u></p> <p>○学習支援と居場所支援と、要望があれば食事提供</p> <p>○週2回(水・金)17~19時に開催</p> <p><u>市内の子どもに関わる活動について</u></p> <p>○市内に地区社会福祉協議会が11か所あり情報は上がってくる</p> <p>○社協としても、全ての活動を把握できていない</p> <p>○市内の子ども食堂は1か所認識している</p> <p>○初倉西部ふれあいセンターで居場所支援、学習支援の取り組みを実施している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が対応し、毎日開催 <p>○現在、地域で活動している団体の一覧表を作成している</p> <p><u>子どもの貧困対策に必要な支援、取り組み</u></p> <p>○学習支援が重要である</p> <p>○地域の民生委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の育成が難しい ・現在の高齢者は70歳まで働く人も多く、そこから地域の担い手になるので、どうしても高齢化が進んでしまう ・講演会や勉強会を開催して人材発掘、育成を進めている ・最近、自治会長や民生委員は元市の職員や県の職員が多い印象がある <p>○市と社協と包括支援センターとの連携が、しっかりしているところが強み</p> <p><u>子どもの貧困対策に不足していること</u></p> <p>○まだ子どもの貧困が認知されていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困の定義や考え方に誤解を持っている人が多い ・貧困状態で大変でも、周りの世話にならないようにしようとしている人もいれば、なんでも利用しようとする人もいて、個別対応が求められる

	○経済的に大変な家庭だけではないので、一概に貧困と言ってしまうこともはばかられる
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●フードバンクを年1回開催し、そこでニーズの吸い上げを実施できた ●貧困は、経済的な貧困だけではないが、その理解が広がっていない ●地域の担い手が不足していることも支援活動の範囲を制限している

調査結果	
団体等名	保育園
調査時間	12/12（火）16:15～17:00
調査内容	<p><u>貧困にあると思われる子どもの状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活保護を受けている家庭 ○通園してなくなった場合は、電話をしたり、訪問ではなく散歩の途中で立ち寄ったという形で家庭にうかがうことがある ○母子家庭の親は、プライドもあり、なかなか支援を受け入れてもらえないケースがある <p><u>気になる子どもへの対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○面談で気になった子どもと家庭の状況は、その後も市役所と共有している ○基本的に、家庭児童相談所と連携を取って対応する ○そのほか、保健センターとも連携して、定期健診の際には情報を伝えてポイント的に見てもらうようにしている ○幼稚園、保育園、小学校の職員が集まる連絡会を2月に開催している <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○園庭開放を行って、保育園に預ける経験を提供している ・必要な支援は、お金だけではなく、寄り添ってくれる人、身近に相談できる人が必要
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●衣類や食事については、保育園でもできるだけサポートするようにしている ●母子家庭の親は、プライドが高く、信頼を築くことから始める必要がある ●保育園に預けに来ない家庭の方がより心配で、どのように支援の手を差し伸べるべきかわからない

調査結果	
団体等名	自治会
調査時間	12/12 (火) 17:15~18:00
調査内容	<p>活動開始の経緯</p> <p>○小学生の子どもをもつ母親がお屋の座談会で話していたことがきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「近頃の子どもはお金の使い方を学ぶ機会がない」という話が出た ・スーパーやコンビニのレジではなく、駄菓子屋でコミュニケーションを取りながら買物ができるようなことがあると良い ・地区の民生委員や子どもの親、高齢者グループを集めて話をしたら盛り上がり、5月にプレイベントを開催した ・プレイベントでは162人の子どもが来た <p>活動の内容</p> <p>○公会堂を利用して実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年の5月に活動を開始 ・週2回(月・水) 15:00~16:30に開催 ・高齢者がボランティアで27人程度関わって店番をしてもらっている ・アパート、マンションに入る人は自治会の活動に無関心 ・「駄菓子屋さん」を開催したところ、2~3歳くらいの小さい子どもが関心を持つ ・その子どもたちを連れてくる親が暇なので、置いてある広報誌などの市の情報誌を読んだりする ・訪れた親と顔見知りになれる ・30代の親と自治会が結びつく交流拠点となっている <p>○季節のイベントも開催している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題やコンサート、書き初め、昔ながらの遊びを展開 <p>貧困の子どもたちへの支援</p> <p>○駄菓子屋さんとしては、子どもの遊び場、集まれる居場所の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやテレビ、スマホが流行っているが、「駄菓子屋さん」の隣の空き地で遊ぶ子どもが増えている ・宿題も一人ですると寂しいが、みんなで宿題をすると楽しいし、お互いに教え合うとはかどる ・立ち寄った中学生3人がそこにいた小学生の子どもへの勉強を教えたことがある ・いじめられっ子やみずぼらしいような子どもも見られるが、みんなと一緒に元気に遊んでいる <p>○子どもに連れられて集まる親がいろいろな話をする機会になっている</p> <p>○情報誌を置いたりして情報発信することはできる</p>
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもが集まって遊べる場ができている ●子どもに連れられて親が集まれる場になっている

調査結果	
団体等名	島田市こども発達支援センター
調査時間	12/11 (月) 15:15~16:00
調査内容	<p>貧困の子どものと思われる子どもの状況</p> <p>○障がいのある子どもを持っていても、貧困だったり、ひとり親ということはない</p> <p>障がいのある子どもへの対応</p> <p>○入園している子どもの両親、家族が頑張って支えている</p> <p>○特別児童扶養手当をうまく利用して生活訓練をすれば、発進が進む</p> <p>○本センターでは、“人を好きになる”、“興味の幅を広げていく”ことが重要だと考えている</p> <p>その他</p> <p>○発達支援センターに隣接して保育園があり、「交流保育」をしている</p> <p>・子どもたちも保護者も交流できる機会を設けている</p> <p>○市、学校、家庭児童相談所などの外部関係機関と連携を密にしている</p>
現状・課題	<p>●障がい児の親が貧困やひとり親につながるケースはほとんどない</p> <p>●貧困のケースの場合、障がい児以外にも様々な要因が絡んでいる</p>

調査結果	
団体等名	島田市こども相談室
調査時間	12月12日(火) 10:00~10:45
調査内容	<p>家庭児童相談員の主な取組みについて</p> <p>○0~18歳までのお子さんのあらゆる相談を受けている</p> <p>○相談件数は、年度で549件ほど、1年間(平成28年度実績)で、延べ3,732回になる</p> <p>○ここは養護児童対策会議の事務局で、傘下に、乳幼児部会と生徒・児童DV部会、障害児療育部会の3部会があり、さらに個々のケース会議において、困難を有するお子さんに対しての情報を全て把握している</p> <p>養護相談増加の背景について</p> <p>○背景としては、子どもに特性があり、それを理解しづらい親が子どもにあたるケース、虐待の連鎖で親自身が虐待を受けた体験があるケース、ひとり親家庭で家族形成ができないケース、親の精神疾患等で就労ができず、貧困になるケースなどがある</p> <p>○根幹は、家族の孤立化で、弱いところである高齢者や幼児に危害が加えられる傾向</p> <p>ケース会議や代表者会議等による対応策</p> <p>○虐待に関しては、「虐待予防教室」を親向けに開催</p> <p>○個々への対策としては、ケース会議を通じての支援や関係機関の「きらきら星」での食料や学習支援を紹介</p> <p>○対策は、指導と支援を行うことで、虐待や養護児童の子どもに対応</p> <p>支援と指導のしくみ(両立)について</p> <p>○現場での一番の問題は、手を差し伸べたいけれども断られてしまい、なかなか効果的な対策が見いだせないこと</p>

	<p>○今後は、チームを組んで指導する者と支援する者がバランスよく関わることで、信頼関係を築き、就労支援や自立支援につなげたい</p> <p>相談を受けた中での、貧困の相談と思われる件数</p> <p>○相談は、ほとんどがグレーゾーンだが、10件中の6割は完全貧困の疑い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しかし実態は、支援・手当等で、経済的には十分なのに、使い方の問題で困窮しているケースが大方（6割のうちの4～5割） ・本当の貧困家庭（6割のうちの1割）は、きちんと就労をしている母子家庭で、制度のはざ間（条件に満たなく満額支給されない）や、生活保護家庭にはなりたくないという本人のプライドがその要因となっている <p>ショートステイについて</p> <p>○疲れてしまった保護者への対策として、1泊2日から1週間、民間の施設に子どものショートステイを委託契約している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、健康面での条件等も含め、利用するハードルが高く、もう少し柔軟に対応できる子どものショートステイがあるとよい ・食事や勉強も見てくれるような場で、子どもたちが自分の足で気軽に行けるような近い所にショートステイの場所があるといい <p>他の関係機関との情報共有について</p> <p>○虐待やネグレクトに関しては、警察、児童相談所、学校、医療機関との情報共有と連携は良好</p> <p>○貧困については、兆候が虐待やネグレクトなど様々な形で現れることがあり、はっきりした定義がないので、なかなか情報の共有が難しい</p>
<p>現状・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●虐待やネグレクトの根幹は、家族の孤立 ●貧困家庭でも、支援を使い果たす家庭と、支援を受けないように収入に制限をかけて苦しい生活を送る家庭の2パターンがある ●柔軟に対応できるショートステイがあると良い ●支援を行うための関係性づくりが課題